

当面の技術対策（畜産編）

令和5年9月15日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

1. 土壌サンプリングについて

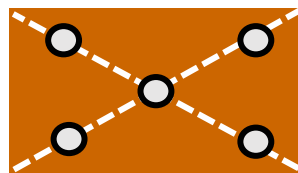
土壌分析を行うことにより現在の土壌養分量に応じた減肥が行えるので、肥料費の削減と収量の維持が両立しやすいです。積極的に土壌分析を行いましょう。また、土壌の深さによって養分量は異なるので注意しましょう。土壌の性質（土壌区分・土性）も分析に関わる重要な情報です。正確に記しましょう。

○土壌採取の仕方

- （1）維持管理草地：牧草の株を避け、ルートマットの有無にかかわらず深さ5cmまでの層を採取する。
- （2）改良対象草地：プラウで反転耕起したあとに表層になる部分を採取する。
※一般的な耕起深は25cm程です。
- （3）サイレージ用とうもろこし畑：作土を採取する（耕起深、概ね20cm前後）。

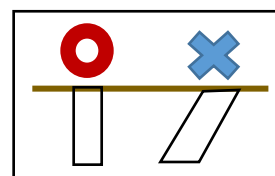
土壌採取地点

- ・ほ場中央付近で対角線に5カ所以上採取する。
- ・水の流れた跡や極端な傾斜がある場所、枕地になるような端は避ける。



○注意点

- （1）地面に対して“まっすぐ”採取すること
地面に対して斜めに採取すると、深さが変わってしまうため、正確な結果となりません。地面に対して垂直に採取しましょう。



- （2）サンプリングの量（生土）
サンプリングの適正量は約500gです。目安としては、こぶし2つつ分です。土の量が過不足ないよう、注意しましょう。
- （3）依頼先
採取したサンプルは、農協窓口にて依頼します。
（窓口：営農部生産販売課）

サルモネラ症等、感染症が流行しやすい時期です。基本の飼養管理を徹底しましょう。特に水槽はこまめに清掃し、清潔に保ちましょう。